

# 令和3年度 第2回成田市男女共同参画計画推進懇話会 会議概要

## 1. 開催日時

令和3年12月21日（火） 13：30～14：40

## 2. 開催場所

成田市花崎町760番地  
成田市役所議会棟3階 執行部控室

## 3. 出席者

(委員) 石渡副会長、甲斐委員、小川委員、宮崎委員、石井委員、大貫委員、内田委員、土谷委員、綿貫委員、伊藤委員、篠塚委員、小川委員（代理・緒方係長）、廣田委員（代理・佐藤副参事）、仲嶋委員、  
(事務局) 谷平市民生活部長、内田市民協働課長、菅澤市民協働課男女共同参画係長、竹内主任主事

## 4. 議題

(1) 「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」  
「成田市女性活躍推進計画」における事業実績について

## 5. 議事(要旨)

- ・第3次成田市男女共同参画計画、成田市DV対策基本計画、成田市女性活躍推進計画を進行管理表に基づいて、令和2年度の成果指標と事業の達成状況を報告・説明を事務局から行った。
- ・令和2年度実施状況報告書（案）についての意見をいただいた。

## 6. 質疑等

主な質問・意見は以下のとおり

(1) 「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」  
「成田市女性活躍推進計画」における事業実績について

土谷委員：市の育児休業、介護休業取得数・取得率、時間外勤務時間数について取得率のデータもあり、子育ての男性参加も増えていると説明があった。育児休業は男性もとるが、育児短時間勤務は男性はとらないこともある。育児短時間勤務利用者のデータがないので、そこに男女差があるのではないか。男性が育児休業を取得したとしても、育児休業後の家事・育児は日常的に女性に負荷がかかっているのではないか。

また、管理職の女性登用に関しても、成田市は国の平均登用率よりも高いが、依然として男女の比率に差があり、女性が育児短時間の取得により職場にいない期間があることで、管理職登用にどう響いてい

るのか。育児休業や介護休業の取得率と連動して突き詰める必要があるのではないかと。

事務局：第4次男女共同参画計画の中で、短時間勤務取得率の追加については検討したい。育児休業や時短勤務と管理職への女性登用については関連した問題であることから、第4次計画では連動させて考えていきたい。

小川委員：庁内各課や関係機関（シェルターや女性サポートセンター）と連携をしていると思うが、実績としてシェルターや警察が関わった事例はあるか。

事務局：関係各課と制度や相談の情報を共有するため、必要な時に適切な連携ができるようDV対策連絡会議を開催している。  
個々の相談内容については、個人情報のため詳細はお伝えできないが、シェルター等と連携するケースが過去にはあった。

綿貫委員：「法制度の周知」と成果指標「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感する」割合について、目標5%に対し令和2年度実績は5.8%であるが、最終達成状況はⅡの評価となっている。目標を達成しているのでⅠの評価ではないのか。

事務局：令和2年度のアンケート調査から「男女共同参画」という言葉が、まだ浸透しているとは言えないことや、平成27年度からの目立った上昇がなかったことから達成状況をⅡの評価とした。

綿貫委員：「個性を生かす教育推進事業」の最終年度総括評価について、「職務の性質上、勤務に適しているか」という観点で非常勤講師を雇用した」とあるが、例えば「職務の性質上、学校の現場での勤務に適しているか」という観点で非常勤講師を採用した」など、非常勤講師が勤務している観点で採用しているわけではないと思うので、総括評価について担当課に確認をして欲しい。

事務局：担当課に確認し対応する。

綿貫委員：「講座教室等開催事業の充実」の最終年度総括評価について、「コロナ禍により、小中学校の授業時間が大幅に減っている状況を鑑み」を「コロナ禍により減った授業時間を確保するため、親子体験事業の実施を見送った。」という書き方の方がいいのではないかと。総括評価について担当課に確認をして欲しい。

事務局：担当課に確認し対応する。

綿貫委員：「外国人への情報提供の充実」「外国人相談の充実」について、近年、ベトナムからの技能実習生が大変多くなっている。ベトナム語も需要があり対応する必要があるのではないかと。

事務局：外国人総合相談窓口では、英語とスペイン語で対応をしているが、ベトナム語はタブレットや電話の通訳サービスで対応している。令和2年度はベトナム語の相談実績はなかった。「なりたび」については、担当課にご意見を伝える。

内田委員：各講座やセミナーがコロナ禍で開催できずE評価となっているが、例えば、男女共同参画推進員はセミナーや講演会は開催することが

できなかったが、推進員会議を開催し活動してきたので、もっと詳細に評価してはどうか。

事務局：活動指標は開催実績を評価しており、開催できなかったものを含め評価できなかったものをE評価としている。

ただし、最終年度総括評価には「セミナー・講演会は中止となったが、男女共同参画推進員会議は開催し活動は行った」と追記することとしたい。

土谷委員：「教職員研修の充実」について、性的マイノリティに対する理解等の研修を実施し、研修依頼のあった小中学校には指導主事が訪問したとあるが、学校の規模に関わらず性的マイノリティは存在すると考えられる。研修に手を挙げた学校に対してだけではなく、予算や時間が可能な範囲で全体に行きわたる教育が必要ではないか。

廣田委員（代理・佐藤副参事）：

性的マイノリティに対する理解等研修の充実を図り、実施しているもので、令和元年度及び令和2年度の実績は10校、6校となっているが、これは本市の指導主事が行っているものを統計したもので、それ以外の医師や県の指導主事に要請し、行っている学校もあるので継続して実施していきたい。

甲斐委員：コロナ禍のセミナー等の開催について、携帯でもZoom等は見ることができるので、参加率も上がると思われる。市でもオンラインと活用し幅広く開催してはどうか。

事務局：令和2年度の前半は準備が整わないなど、オンラインでのセミナー等の開催は難しい状況だったが、後半からはZoomでの開催も徐々に実施している。今後は、会場でのセミナー等の開催の他に、Zoomでの開催も各課で対応していくと思われる。

綿貫委員：「結核・がん検診」について、令和2年度実績の肺がん検診の男性の割合は11.3%ではなく、11.6%ではないか。

事務局：確認し対応する。

綿貫委員：第4次男女共同参画計画にSDGsについて盛り込んでどうか。

事務局：第4次男女共同参画計画の(4)「計画の位置づけ」として「ジェンダー平等を実現しよう」を加えている。

宮崎委員：令和2年度担当課評価の事業実績85%以上がA評価、最終年度における事業の達成状況の75%以上がIの評価であるが、評価基準は揃えた方がいいのではないか。

事務局：担当課評価は単年度の評価であることから、AからDまで25%毎となっている。第3次計画策定後の懇話会において、評価基準を協議して現状となった。第4次男女共同参画計画の評価基準については、今後、検討したい。

## 7. 傍聴

なし